

**第2回カンボジア国全国結核有病率調査 暫定結果発表**  
**～JICA 支援の成果がアジアにおける結核対策の新たな方向性に貢献～**

結核は過去の病気と思われがちであるが、現在でも世界全体では人口の3分の1が結核菌に感染、年間145万人以上が死亡しており、HIV/エイズ、マラリアと共に世界三大感染症の一つに位置づけられている。また、結核患者の過半数はアジアの国々に集中し、カンボジア国においても長年の内戦による医療システムの崩壊、国民の栄養状態の悪化により結核感染が拡大し、WHOが緊急に結核対策を必要とする「結核高蔓延国22カ国」の一つとなっている。

この結核蔓延状態に対応するため、JICA（国際協力機構）は1999年からカンボジア国立結核センター（National Centre for Tuberculosis and Leprosy Control: CENAT）を中心に技術協力プロジェクトを実施、同国の結核対策への支援を開始した。2002年にはこの国における結核実態を科学的な方法で明らかにすることを目的に、第1回全国結核有病率調査を実施、人口10万人あたり269人もの喀痰塗抹陽性患者（顕微鏡検査で喀痰から結核菌が見つかる感染力の高い患者）がいることを明らかにした。この数字は戦後日本で最も結核患者が多かった第二次世界大戦直後の状況に近いと思われる。

実質第三期目にあたる現行プロジェクトは、2010年12月より2011年9月にかけて、WHO等の国際機関の連携の下、第2回全国有病率調査を実施した。これは、疫学的方法に基づいて選ばれた62地区において、15歳以上の住民約4万人を対象とした大規模の疫学調査である。フィールド調査終了後より結果集計作業が行われ、この度得られた暫定結果では、第1回調査結果と比較して約30%の塗抹陽性患者の減少が認められた。これは過去10年以上にわたり進められてきたJICAを始めとする各パートナー組織による結核対策支援の効果を客観的に示すものであると同時に、減少傾向にあるとは言え未だアジアで最も高い有病率を示すこの国で今後取り組むべき課題を明らかにするものでもある。さらに、本調査結果はWHOがこれまで推進してきたDOTS（ドッツ）と呼ばれる結核対策戦略の有効性を明確にし、今後のアジア地域における結核対策の方向性を示すことにもなるため、世界的にも注目されている。

今般、下記の日程で検討会（Dissemination WS）を開催し、カンボジア国内外の関係機関、専門家を招いて、公式に暫定結果を発表する。

ワークショップ名: Dissemination Workshop on the Preliminary result of the 2<sup>nd</sup> National Tuberculosis Prevalence Survey

日時: 2012年2月8日 8:00 開始 会場: Cambodiana Hotel (313 Sisowah Quay, Phnom Penh)

<プレスリリース問い合わせ先>

CENAT/JICA National TB Control Project

業務調整員 山本記代美

E-mail: [kyamamoto@jatahq.org](mailto:kyamamoto@jatahq.org)

Tel: (855) 017 846 424